

日本学術振興会が畳堤視察

自主防災精神に感嘆

龍 野

特殊法人日本学術振興会が二十七日、川面の見える堤防として親しまれている龍野市の「畳堤」を視察した。参加した大

学教授らは実際に畳を差し入れ、住環境と治水を両立させた工夫や、住民参加で町を守る協働の精神を感じ取っていた。視察には、日本の文化や伝統に根ざした空間管理などを研究する同振興会「人文社会振興プロジ

ェクト」のメンバー約二十五人が参加。国土交通省・姫路河川国道事務所や龍野市消防本部から、龍野市に二千七百坪、揖保郡揖保川町に二百五十

坪、同御津町に百六十坪ある揖保川の畳堤の説明を受けた。

千葉大学の延藤安弘教授は「河川敷が見えないような高い堤防は、川への冒とくだ。龍野の畳堤は、普段は川面が見えるし、暴れ水を畳で受け流す発想。感銘を受けた」と話していた。



畳堤を視察する日本学術振興会のメンバー＝龍野市龍野町富永